

## 学生役員という仕事

国大化学会学生役員 山本慎太郎

三年後期の授業中、化学会役員でらっしゃる關先生に声をかけていただき、学生役員になることを決意いたしました。「おいしいご飯を食べながら、OBの方々とお話する」といった仕事です。」と、今思えば大雑把過ぎる話を聞き、軽い気持ちで始まった学生役員は、予想以上に大変なことばかりでした。当時友人としか電子メールのやり取りをしたことのなかった自分は、目上の方とメールのやり取りをするということは初めてであり、非常に困惑しました。また役員会で役員の方々とは会議をするときも、自分にはどのような役割が求められていて、そのためにどのような発言をすればよいのか、などと複雑に考えていたのを覚えています。

一番勉強させていただいたのは、第三回ホームカミングデー (HCD) の実行委員をやらせていただいた時です。自分はHCDにいらしたOB・OGの方々に、旧友や恩師と会話を楽しむ場を作り出す、懇親会グループに参加させていただきました。若干21歳になったばかりの自分には、同窓生との近況報告や、恩師との再会などといった事に対してあまり実感がわかず、どのような雰囲気作りを行っていけばよいのかわかりませんでした。懇親会に足を運んでくださる方々は何を目的として、どのような時間を過ごしに懇親の場へ来るのかという全体的なことから、参加者の方々に振舞うお食事や抽選会の商品など、事細かな部分まで自分たちで考え、企画し、実行しなくてはなりません。しかし、同じグループの皆様は経験あるベテランの方々ばかりで、様々なことを教えていただき、非常に貴重な時間を過ごさせていただきました。実行委員皆様の御尽力



により、第三回HCDは大成功に終わることができました。

自分は学生役員の二代目であります。つまり、国大化学会が始まって早くも二年が経ったということです。順調なスタートダッシュを切った本同窓会も、発展の時期を迎えております。そういった意味で、本年から教育研究支援基金が発足した事は皆様もご承知の事と思います。また、三会統合前から行われていたOBと語る会も、引き続き行われています。ですが、教育研究支援基金への申請はまだまだ少なく、周りにはそのような学生支援があることすら知らない学生が多く見られます。OBと語る会も、大教室で大々的に行われるようなことはなく、小規模に細々と行っている印象を受けます。まだまだ発展の余地は十分にあります。現役生と卒業生の間にある隙間を本同窓会が埋めることにより、お互いが「見える、身近な」存在になる。それが国大化学会の使命ではないでしょうか。